

高齢者ニーズ調査概要

2014年3月31日
一般社団法人電子情報技術産業協会
CE部会

高齢者ニーズ調査について

調査概要

- 調査対象： 1都3県(首都圏)在住の64～75歳男女
※高齢者の一般的な定義は65歳以上だが団塊の世代(64～66歳)を含めるため調査対象を拡張
- 調査期間： 2013年11月～2014年2月
- 調査方法
 - ① Webアンケートによる定量調査 1000人(ネット利用層が対象)
 - ② グループインタビューによる定性調査 5グループ×5人 計25名
(Webアンケート回答者の中から選定)

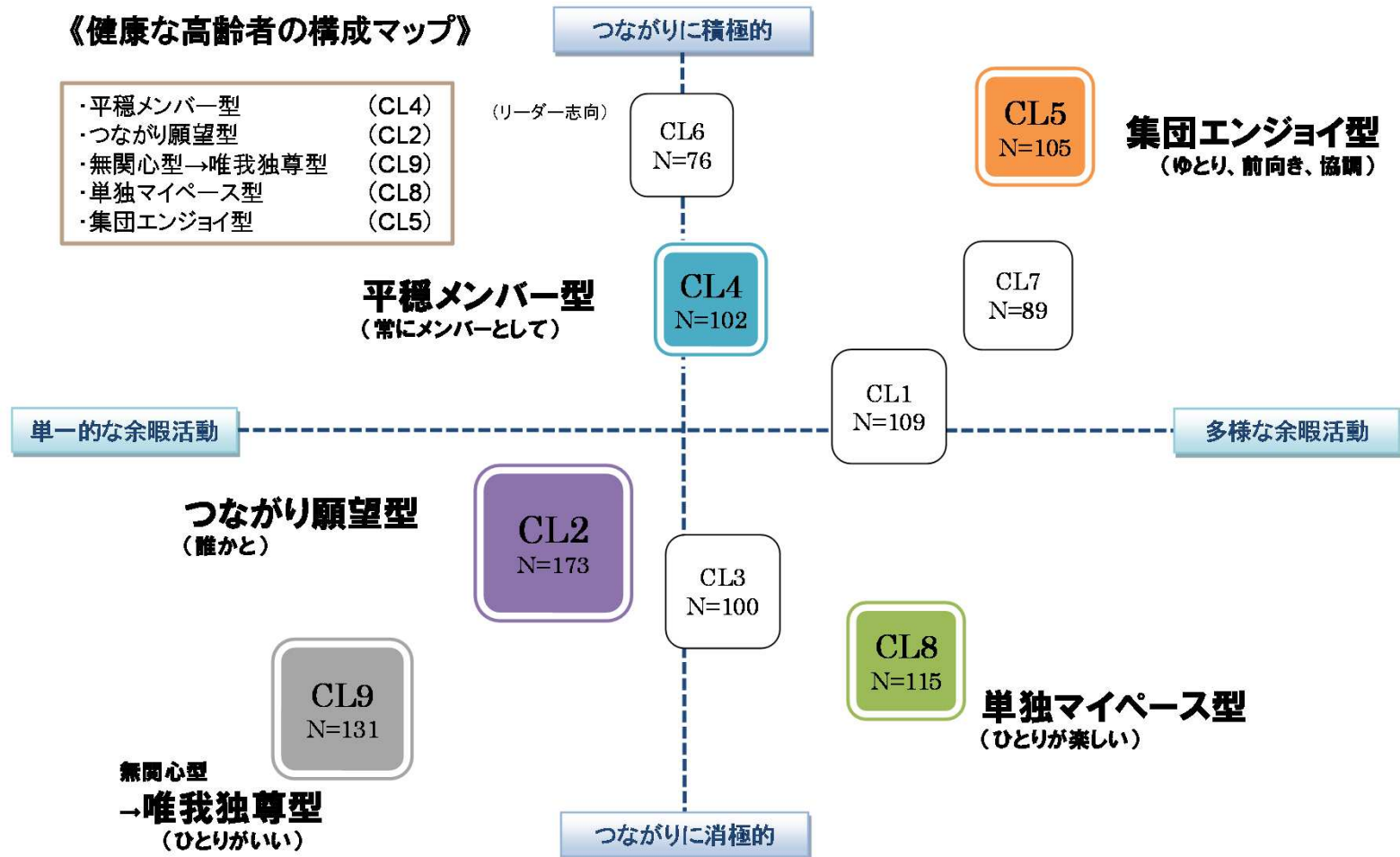
	調査方法 ※	調査対象	調査時期
第1ステップ...定量調査	Webアンケート	1000人	2013年12月
第2ステップ...定性調査	グループインタビュー	5人×5グループ 25人	2014年1月

※定量調査をもとにクラスター分析を行い、対象グループを5つ選定し、グループインタビューを実施した。

高齢者ニーズ調査 - 定量調査 (Webアンケート) 結果

- Webアンケート調査データを「余暇活動」と「つながりの意識」に注目し多変量解析にて9つのクラスターを導出
- この中から5クラスターをグループインタビュー対象に選定、クラスターにネーミング。

対象となる5グループの位置づけ 《健康な高齢者の構成マップ》



高齢者ニーズ調査 - 定性調査（グループインタビュー）結果

5グループの特徴比較

以下は、5つのグループの特徴をまとめたものである。

CL4とCL2は、いずれも「つながり」を望んでおり、協調を重んじる雰囲気が類似していた。

CL9とCL8は、「つながり」を強く望んでいない点、独自の生活パターンを確立している点で酷似していた。

CL5は、唯一女性のグループで、多趣味でつながりや社会との関わりを望む活発な人々であった。

CL	属性の特徴	意識・要望
CL4 平穏メンバー型 (男性5人)	趣味を通じた仲間や地域との交流に意識的に参加。	ネットに頼らず、face to faceのつながりを望む。 孤独死が怖い。独居になったら「話し相手」が欲しい。 「シニア向けコミュニティ空間」に関心あり。
CL2 つながり願望型 (男性5人)	交流範囲は限定的だが、つながりは必要と感じている。	退職後、社会に取り残されていると感じることも。 一人では生活したくない。子や孫、地域、仲間とのつながりが必要。 独居になったら、寂しさを癒すものが欲しい。
CL9 唯我独尊型 (男性5人)	独自の世界観と生活パターンを確立。仲間やつながりに頼らず単独で行動	あえて仲間づくりは望まない。深いつきあいはしたくない。 独居、孤独死への不安はあるが、体が元気であれば、特にサービス・手助けは不要。 高齢化による衰えを予防し、現状維持期間を延ばすサービスを望む。
CL8 単独マイペース型 (男性5人)	規則正しい生活パターンを確立。つながりや交流に積極的ではない。 人づきあいはストレス。	人づきあいの相手を選びたい。気の合わない人といるのはうとうしい。 同類がたくさんいる所には入りたくない。 歩けなくなるとやりたいことがやれなくなる。足腰の健康に留意。
CL5 集団エンジョイ型 (女性5人)	好奇心が旺盛で活動的。 多趣味・社交的・おしゃべり好き。社会と関わりたい。	何かをせぬにいられない。じっとしているのは不安。 仕事、ボランティア、趣味などを通じて社会の役に立っていることを実感したい。 愚痴を聞いてくれる人が欲しい。 安心して任せられる管理サービスがあるとよい。

- 高齢者は「健康維持」や「つながり」が共通の関心事項であり、ネット利用層は、何らかの生きがいを持ちやすいという傾向がある。
- IT・エレクトロニクスを活用し受けたいサービスもあり、当業界にとっても大きな潜在ニーズがあるマーケット層だと言える。